

# 平成 30 年度事業計画

公益財団法人日本鳥類保護連盟

## I. 基本方針

本財団の目的である鳥類等の野生生物保護をはじめとした自然保護思想の普及啓発及び鳥類等の野生生物の保護を推進していくことを基本とし、以下の方針を掲げる。

1. 連盟の柱となる公益に資する事業を活性化させる。
2. 支部との連携を強化して活動を活性化させる。
3. 国際協力事業を展開していく。
4. 一層幅広い年齢層へ連盟の魅力ある活動を発信し、会員獲得を目指していく。
5. 寄付金、助成金等の獲得においては、国内における企業、団体からの支援をより受けられるよう努めることに加えて、海外の企業に対しても、今までの実績を十分活かしながら助成金獲得を進めていく。

## II. 事業

### 1. 鳥類等の野生生物保護及び自然愛護の精神を育成するための普及啓発活動

#### (1) バードピア推進事業

バードピアマニュアル、ホームページ等を活用して、団体や個人登録者を増やしていくとともに、既存の登録者とのコミュニケーションをより活性化し、登録者のメリットについても検討していく。

#### (2) 愛鳥週間関連事業（愛鳥週間 平成29年5月10日～5月16日）

##### ① 第72回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

平成30年5月13日（日）に東京都新宿区において、環境省との共催により開催する。

##### ② 平成30年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール

平成31年度の愛鳥週間用ポスターの原画を募集し、連盟総裁賞他各賞を選定する。

##### ③ 愛鳥週間関連各種普及啓発行事

自然観察会、探鳥会、愛鳥ポスター展示及び表彰等、普及啓発のための行事を本部、支部で開催する。

(3) その他普及啓発事業

① 『ヒナを拾わないで!!』ポスターキャンペーン  
関係2団体と連携してポスターを作成、配布する。

② 全国一斉テグスひろい

5月1日から10月31日の間で実施し、結果を機関誌、ホームページに掲載する。平成30年度に向けて活動を活性化させるためのTシャツや腕章などのアイテムを作成、配布する。(アウトドア環境保護基金に申請中)

③ 巣箱架け

巣箱の組み立て、架設を親子で行う巣箱教室や、巣箱架けに関するイベントを実施する。

④ 探鳥会、自然観察会等

子どもをはじめ一般の参加を募り探鳥会、自然観察会・体験活動やツバメ等の一斉調査などを実施する。

⑤ 普及教材の販売及び開発

企業と共同開発した野鳥用の餌のバードピア事業と併せ販売を拡大するとともに、給餌時期、方法などについて普及啓発活動を併せて行う。また、ピンバッジ、音声再生・録音ペン等の既存の普及教材の普及拡大及び教材の改良を推進するほか、新たな普及啓発用の教材の制作も検討する。

2. 鳥類等の野生生物保護に関わる調査研究事業

(1) 自主調査および保護研究事業

① コアジサシの調査研究および普及啓発活動

以下のコアジサシの調査研究をコアジサシ研究センター(以下、センター)で実施する。

a. 三井物産環境基金(研究助成)による助成事業

「絶滅危惧種コアジサシの越冬地・渡りルートの把握と保全のための活動」

平成 28 年度から 3 カ年の助成で進めているため、平成 30 年度もセンターとして調査を実施する。平成 30 年度は最終年度となるが、コアジサシに装着した GPS ロガーを回収し越冬地の把握、そして把握された越冬地の環境調査を行う。これらの成果をカナダで開催される国際鳥類学会議 (IOC) に参加して発表し、保護のための普及啓発活動に努める。また、これらの活動に絡めてコアジサシの生態をより詳細に把握するため、インドネシアに留鳥として生息するコアジサシについても調査対象にすることを検討する。主な活動地域は関東、九州、沖縄、東南アジア、そして発表場所のカナダ。

b. 科学研究費助成事業 (科研費) による助成事業

センターの研究者が科研費を平成 28 年度から受けているため、センターとして調査に協力・実施する。主な活動地域は沖縄、台湾、中国。

c. イオン環境財団による助成事業

「リトアニア教育大学とのリトアニアにおける共同研究事業」

平成 30 年度は新たに GPS ロガーを装着してコアジサシの具体的な越冬地や中継地の把握に努める。また、平成 29 年度はジオロケータを 7 個回収し、大まかな越冬地の把握に至ったため、成果をカナダで開催される国際鳥類学会議 (IOC) に参加して発表し、保護のための普及啓発活動に努める。主な活動地域はリトアニア、そして発表場所のカナダ。

② シマフクロウの保全のための活動

シマフクロウの保全活動については釧路支部が中心となって行ってきたが、平成 30 年度は本部も共同で保全活動に取り組む。これにあたり、保全のための現地の活動や広報の実施、寄付金や助成金の獲得に積極的に努める。

③ ワカケホンセイインコの調査研究

ワカケホンセイインコのねぐらが分散したこともあり、分布に変化が見られ始めている。平成 29 年度は分散したねぐらにおいて一斉カウントを行うなど、個体数の把握に努めてきたが、平成 30 年度は、個体数の把握に加えて、分布、繁殖環境等の調査を実施する。主な活動地域は関東。

④ 専門委員のモニタリング調査

連盟本部で委嘱している専門委員にお願いし、平成 19 年度から

一般鳥類のモニタリング調査を 12 月と 1 月に実施している。平成 30 年度も引き続き調査を実施する。

⑤ アメリカとの共同研究事業

現在アメリカの研究者と共同事業ができないか調整をしており、対象種は未定であるが、今後テーマを決めて共同事業をすることを検討する。

(2) 受託事業

サントリーホールディングス株式会社からの天然水の森の鳥類調査をはじめとして、鳥類調査等を受託し実施する。公益性を重視したうえで受託事業は積極的に行うことを検討する。

3. 鳥類保護の国際協力に関する事業

(1) フィリピンにおける自然保護活動

平成 28 年度から中古双眼鏡の募集を実施しているほか、平成 29 年度は経団連自然保護基金から助成をいただき、猛禽類の渡りの把握などに協力をした。平成 30 年度は渡りをする猛禽類のアカハラダカや留鳥である国際的な希少鳥類フィリピンワシを保護するために森林再生のための植栽を助成すべく、経団連自然保護基金に申請中である。

(2) リトアニアとの協力事業

コアジサシの調査・研究事業に加えて普及啓発用のリーフレットの作成や説明会を開催し、自然保護の基盤づくり及び保護思想の普及啓発に寄与することを検討する。

(3) 日中トキ協力事業

これまで連盟では、中国のトキ保護活動に対して国際的な支援、協力を行ってきた。平成 30 年度も日本と中国間におけるトキの保護活動に協力していく。

(4) 日露渡り鳥保護協力事業

ロシア科学アカデミーとの渡り鳥の保護に関する協力及び青少年交流を本部と富山県支部で実施する。

#### 4. 鳥類等の野生生物保護にかかわる個人及び団体による功労の表彰に関する事業

(1) 功労者表彰

環境省との共催により、第72回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」の際に野生生物保護等に功労のあった個人・団体を表彰する。

(2) 第53回全国野生生物保護実績発表大会

環境省との共催により全国の小・中・高校・団体の活動実績及び発表を審査、表彰する。

#### 5. 組織及び連盟運営の拡充に関する活動及び事業

(1) 機関誌「私たちの自然」

発行回数：年6回

発行部数：2,500部

配付先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局及び教育委員会等。また、広報活動の一環として各種行事（野鳥保護のつどい、ジャパンバードフェスティバル等）において無料配布。

(2) 支部報

神奈川県、富山県、石川県、山梨県、茨城県及び連盟京都の各支部において、支部報「ふれんどりー」「らいちょう」「朱鷺」「うぐいす」「かわせみ便り」「連盟京都つうしん うぐいす」をそれぞれ発行し、地域の愛鳥思想の普及啓発を推進する。

(3) ホームページ・連盟案内

機関誌と並ぶ情報発信ツールとして活用し、会員獲得と一般の方々へのアピールにつなげていく。

(4) 活動PR

我孫子市での「ジャパンバードフェスティバル」などのイベントに参加し、連盟活動のPR及び愛鳥思想の普及啓発を行う。

(5) 寄付を獲得するための活動

普及啓発活動および調査研究事業を円滑に行うため、使用済み切手の募集、巣箱事業等の各事業に対する寄付など、個人や企業を対象として物品を含む寄付を募る。

